

令和元年11月5日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

福島町議会議員 溝部 幸基〇
印

研修成果報告書

福島町議会議員の研修に関する条例第7条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修日時 令和元年10月9日(水)
午後1時30分～午後4時40分
- 2 研修先 北斗市総合文化センター かなで～る
- 3 研修目的 令和元年度渡島・桧山管内市町議会議員研修会
- 4 成果 別紙のとおり

【研修会講演内容】

- (1) 「地域づくりは人づくり
～地域連携によるキャリア開発実践～」
(一社)日本経営協会 きゃりあ工房 田崎 悦子 氏
- (2) 「チャンスは大チャンスに
～道南の食と観光の磨き上げについて～」
北海道経済部 食産業振興監 甲谷 恵 氏

(1) 「地域づくりは人づくり
～地域連携によるキャリア開発実践～」

(一社) 日本経営協会 きゃりあ工房 田崎 悦子 氏

横浜国立大学卒業後、テレビ朝日(報道局専属レポーター) → 第一生命(営業・指導主幹・支店長) → (株)イフ(経営企画室長: 障害者就職支援) → 北海道移住 → アリコジャパン(営業) → 北海道セルラー(法人営業・総務部教育グループリーダー: 現KDD北海道支社) → 独立: きゃりあ工房を設立した。

きゃりあ工房事業として、NPO法人北海道開拓使の会(理事長: 移住支援活動)・北海道国際航空(社長付ゼネラルコーディネーター北海道PR企画: 現エアドゥ)・丸和運輸機関(道産品コンサルタント)等を実践、札幌女子短大(特別任用准教授)・大阪教育大学(キャリア支援センター副センター長准教授)・苫小牧駒沢大学准教授としても活躍してきている。

「キャリア」としての自分自身の実体験(子育てを含む)を紹介しながら、地域連携による「人づくり(キャリア開発)」の重要性を訴えておりましたが、経歴・活動実践が、多すぎて短時間で理解するには、時間が足りなかった気がします。

〈講演の要旨〉

① 公職複業

・過去の経歴: 道景観のくにづくりアドバイザー、道地方競馬運営委員、道農業公社(新たな担い手確保経営強化対策協議会委員、NPO法人北海道開拓使の会事務局長(移住支援)、NPO法人めーでる理事(モノづくり・ヒトづくり・コト起こし支援)、NPO法人アイセックJP北海道理事(留学支援)、苫小牧市: 食育推進協議会会長・地方卸売市場運営協議会委員・スポーツマスター選考会議委員・スポーツ推進審議会会長

・現在: 追分高等学校] 学校運営協議会委員(道教委委嘱)・日本インターンシップ学会道支部運営委員・日本産業カウンセラー協会道支部運営評議員

② 北海道の地域づくり活動: 移住・観光・農業・地産地消

・朝日TVレポーター(週3～7分間の番組)として、情報収集し、レポートをまとめる作業で、今日に至る、基本的な多くの経験をする事が出来た。

・経験を活かし、営業・提案・交渉力 → 立上げ・人材育成力 → 障害者支援・観光・農業・地産地消・移住や起業の企画から開設までのオールマイティーで専門的な指導を実践できた。

・多くの実践例を紹介しながら、「人材を育て活かす」「誰もが活躍できる」「関係人口の拡大(地方創生の方向性)」、「経験から、子どもの農山村留学(体験)の効果」「小さなコーディネーターから始めること」等、基礎となる体験の積み上げの重要性を熱く話しておりました。

また、甲谷さんも話しておりましたが、「モノ消費」から「コト消費」へ「みる・食べる・遊ぶ」から「体験する」、「ストーリー(物語)」を楽しむ観光への変化を強調していたことも印象に残りました。

(2) 「チャンスは大チャンスに
～道南の食と観光の磨き上げについて～」

北海道経済部 食産業振興監 甲谷 恵 氏

甲谷さんとの初対面は、女の相撲大会でした。席が隣になり笑顔で気さくな自己紹介から始まり、土俵で展開する女性力士の一挙手一投足に驚き・熱中し、拍手をする姿を見て「甲谷さんも出てみませんか！」と話したことを思い出します。その時の印象が、相当強かったのか、再会したときには、「来年の大会に出場しますから！」と約束したのですが、1年で本庁に戻ることになってしまい、送別の会では、「約束を守れず残念です！」と言っていたことも思い出します。

履歴を見ると、知事室(国際課主幹)→総務部危機対策局(防災教育課長)→環境生活部(道民生活課女性局長)→渡島総合振興局副局長→環境生活部(文化・スポーツ局長)→農政部(食の安全推進監)→経済部(食産業振興監)と短期間で昇格しており、高橋・鈴木道政の重要な役割を果たしてきたことが理解できます。

甲谷さんの講演を聞くのは初めてでしたが、全道・全国・世界を俯瞰しながら道南圏に的を絞り、周到に準備された資料も分かりやすく、完璧なプレゼンテーションを聴かせていただいた感じがしました。

道職員の話聞く機会が結構あるが、専門的な情報を的確に説明し、勉強になることが多い。有能な職員が多いことは間違いないが、鈴木道政スタートの評判は芳しくない。報道が100%とは思はないが、「見栄えより進路を示して」「課題解決の道筋をつけたり、道政の方向性を示す場面がほとんどなかった」(道新社説)、「東京都内で企業を集めて発足イベントを開くなど、演出は派手だったが、集めた資金を使ってどんな施策を実現しようとしているのかが判然としない。」「支援を求める道内市町村と、支援する企業を結ぶウェブサイトも、ふるさと納税の民間サイトと似たり寄ったりで、道が両者をどう橋渡しするのか分からない。」(道新今日の話)、 「財政の壁を超える工夫を」(堀元知事)、「道民目線、あいまい」(道連合会長)と厳しい意見が多い。

一方、道議会の体たらくもひどすぎる。世界基準の「道受動喫煙防止条例」の制定を目指す状況下で、道庁舎・道議会庁舎の完全禁煙が実現できない状況は、多くの道民の理解を得ることが出来ないし、道議会においては、依然として、政務活動費の公開・事前打ち合わせ(学芸会的と指摘されている)廃止徹底が実現されていない。道内自治体の模範となるべき道議会は猛省してほしいと思っている。道職員の能力の高さ、大変苦勞していることも想像できるが、士気に影響しないことを願う。

道・道南圏を構成する一自治体・議会・議員として、甲谷さんの話のどれ程を理解して活動してきたのかを考えると、大きく反省しなければならないことが多かった。

〈講演の要旨〉

- ① 道は、全国のフロントランナーとして、誇るべき価値をさらに磨き上げ、新たなステージを目指している。(定住人口+関係人口+交流人口)
- ② 2020年代はチャンス波

全国→WCラグビー・東京オリパラ・大阪EXPO2025・札幌冬季オリパラ
北海道→クルーズ船ブーム・G20JAPN・ウポポイ(民族共生象徴空間)・縄文遺跡群の世界文化遺産登録・北海道ボールパーク・空港一括民間委託・新幹線札幌延伸

- ・道内各地(札幌・ニセコ・白老等)
- ・道外各地(東北・首都圏・関西等) → 道南圏へ
- ・世界各国(アジア・欧米等) 「食・観光」の磨き上げが必須

③ 食の磨き上げ

- ・ワイン産地：はこだて・富岡(乙部)・農楽蔵(函館)・奥尻
*函館は、ワイン産地として、気温・降水量・土壌等多くの項目で高い評価を得ている。(フランスの名門ワイナリーも評価)
- ・ワインから地域振興へ：食(チーズ・魚介類・飲食店等)、観光(景観・ワイナリー巡り・体験宿泊等)、人々(雇用、移住、ファン)、地域(産地PR・土産・贈答品・郷土愛)
- ・食のブランドづくり：地域フード塾(地域絶品づくりのマーケティング)、乾燥ナマコ(檜山海参ひやまはいしえん)、王様しいたけ(福島の横綱しいたけもある)、がごめ昆布(福島のアカモクもある)、ブリの消費拡大、アワビ陸上養殖(福島)、今金男爵、北のハイグレード食品(道産加工食品のトップランナーの商品群を選定：131品)
- ・食のサポーター委嘱(バイヤー4名、料飲食10名、流通2名)、販路拡大支援(どさんこプラザ・プロモーション・商談会・世界料理学会連携・青函食材見本市・道南食と観光ブランドフェア)
- ・安全安心な北海道の原材料に付加価値をつけ、売れるところに売る。
(発掘→磨き上げ→販路拡大)

④ 観光の磨き上げ：今こそ道南！

・日本文化への関心の高まり(シニア層、欧米人)
・「モノ消費」から「コト消費」へ(見る～体験する、ストーリーを楽しむ) → ・アドベンチャー・トラベルへの動き

・道南にしかない物語
・つながり増す面白さ

- ・縄文遺跡の世界遺産登録(最短で2021年)
- ・縄文、歴史、世界遺産ファンが来る。→ 縄文の魅力を語る準備は？
- ・縄文の魅力：①1万年も続いた平和な文化、②土器・土偶のレベルが高い、③高い精神性(共生社会、自然・生命への向き合い方、感謝)、④津軽海峡を越えて交流(黒曜石・ヒスイ・アスファルト等)
- ・道南は、縄文人に選ばれた豊かな場所、現代人が忘れかけている精神(平和自然、命) → 掘り出した我々の使命であり、世界に伝える
- ・函館戦争を巡る旅：①道南全域を舞台に「戊辰戦争最後の戦い」、②五稜郭、松前城、鷲ノ木上陸の碑(森)、峠下の戦い(七飯)、官軍上陸の地(乙部)、開陽丸(江差)等
- ・道南ならではの日本文化：①松前神楽・木古内みそぎ祭・女の相撲大会・祭り・マチ歩き(江差北前ひな祭り)
- ・道南ならではの体験：マチ歩き・キャンプ・釣り・サイクリング・スノー

モービル・ロケ地巡り・神社仏閣巡り・温泉巡り・青の洞窟・相撲体験
*「何度でも来たくなる地域」「2020年はチャンスの波、環境が整う、人が来る」「応援したくなる地域」、「応援したくなる地域 → ①地域を自慢する、②頑張っている「人」を応援・活用する、③連携し、道南ならではの「提案」を。④みんなで発信(情報の声掛け)

⑤ほっかいどう応援団会議：鈴木知事の公約

- ・「北海道」命名150年。北海道を愛してくれる人々の力を結集し、活力あふれ、力強く前進し、北海道が日本を、世界を代表する素晴らしい地域となることを目指す会議。
 - ・どんな人が応援するの？：①資金面：ふるさと納税・クラウドファンディング・寄付、寄贈等、②協働活動：包括連携、タイアップ事業などの協同プロジェクト等、③事業活動を通じて：企業立地、道産品の販路拡大・PR等、④その他：専門的スキル活用したボランティア、観光リピーター等
- *福島に置き換えて、東京・札幌福島会の在り方(協働)について再考すべきと思慮する。その点からも、函館福島会の突然の解散は、残念だ。大いに反省しなければならない。

〈考 察〉

男女共同参画社会基本法が成立して20年が経過、依然として成果を実感できていない状況下での、「女性キャリア2名」の話聞く今回の企画は、議長会としては、画期的で的を得ていると評価する。

男女共同参画は、全国的な問題となっているが、福島においても難しく、「夢のまた夢」の感がする。議会議員、役場職員人事、諮問会議委員、各種団体役員(町内会、福祉・産業・教育団体等)の状況を見ても残念ながら改善の兆しもない。

田崎さん、甲谷さんのように男性に勝るとも劣らない女性の参画・活躍は、そう簡単には望めないとしても、現状を打破し、わずかな可能性に挑戦するためには、身近なところから、女性の参画について真剣に検討することが重要と思慮する。

政治分野における男女共同参画を推進する法律が昨年5月に施行されている。議会議員数の男女対等を目指すことを目標としているが、現状では、至難の業で実現は難しく、余程の覚悟をもって臨まなければならない。

因みに、女性議員の比率が高い市町村の状況は、

- ① 神奈川県大磯町(7/14：50%)
- ② 大阪府交野市(7/15：46.7%)
- ③ 東京都清瀬市(9/20：45.0%)
- ④ 鳥取県日吉津村(4/9：44.4%)
- ⑤ 愛知県東浦町(7/16：43.8%)
- ⑥ 大阪府島本町(6/14：42.9%)
- ⑦ 神奈川県葉山町(6/14：42.8%)、
- ⑧ 東京都武蔵野市・小金井市・東村山市・多摩市、長野県飯島町(41.7%)